

北海道札幌琴似工業高等学校

課程 全日制
 学科 工業科
 生徒数 926名

1 事業のねらい

本校生徒においては人間関係のトラブルから、心身の健康を害したり、学校生活への不適応を起ししたりする場合も見受けられる。日常の学校生活においてはもちろん、進路を開拓したり、社会に出て働く場合も不可欠となるコミュニケーションスキルの習得を目標に、自分を表現し、相手を理解する円滑なコミュニケーション（会話）のスキルアップを目指す。

2 取組の経過

7月 関係教職員研修
 自己分析テストの検討

9月 対象生徒の変更
 （生徒会規律委員会→1学年）

11月 コミュニケーションスキルアップ 教室①

12月 コミュニケーションスキルアップ 教室②③（エゴグラム実施）

2月 個別面談指導

<組織図>

教頭を窓口として養護教諭（保健室）が連絡調整を進めるとともに、必要に応じて関係教職員による臨時生徒相談委員会を開催する。

3 主な取組の内容

1 コミュニケーションスキルアップ教室の開催

(1) 第1回 (11/18 (木) 17:00～18:00 環境化学科1年希望者4名)
 コーディネーターと北海道医療大学の学生とのエンカウンターによる交流後半、生徒の表情が明るくなり、ゲームへの積極的な参加が印象的だった。

(2) 第2回 (12/15 (水) 3校時 環境化学科1年A組40名)
 エゴグラムの実施
 コーディネーターと大学生による「心についての学習授業」
 事後アンケートにおいて、理解できたと答える生徒が100%であった。

(3) 第3回 (12/20 (月) 1校時 環境化学科1年AB組80名)
 コーディネーターによる講話「コミュニケーションとメンタルヘルス」
 事後アンケートにおいて、理解できたと答える生徒が約85%であった。
 有志生徒がアンケートの集約結果などを基に「コミュニケーションだより」を作成し、対象クラスへ配付した (12/23)。

2 エゴグラムの実施

(1) 実施日 12月15日(水) 環境化学科1年A組 40名
 12月20日(月) 環境化学科1年B組 40名

(2) 実施要領 ①HRにて担任より説明後、各自に個人票へチェックさせておく。
 ②コミュニケーションスキルアップ教室へ各自個人票を持参し、授業の中で採点票へ本人が記入する。
 ③採点票をコーディネーターが回収し、分析する。
 ④生徒へ個別にフィードバックシートを配布 (1月20日)
 担任へ学級集団としての分析フィードバックシートを配布
 ⑤コーディネーターとの個別面談指導を要する生徒の選定
 ⑥コーディネーターによる個別面談指導の実施 (4名)

3 生徒の感想から

「今回の話を聞いてうつ病のこと、思考や周りとのコミュニケーションについてよくわかりました。自分達は今この学校にいるということだけでも、周りとのコミュニケーションの取り方などを勉強することができ、人間関係のことについても考えていけるので、今の時間を大事に使っていったら良いと思います。ありがとうございました。」

4 成果と課題

○ 成果

1学期終了後に、1学年にコミュニケーション力が乏しい生徒が例年より目立っていることが学年会議で取り上げられた。本プログラムにより実施した3回のコミュニケーションスキルアップ教室において、回を重ねる毎に、コミュニケーション活動に興味・関心を示す生徒が増え、生徒の素直な心の部分に訴えかけることができたことと評価している。また、集団対象のカウンセリングは、生徒にとって自己理解と他者理解の良い機会となり、担任はHRにおいて心の健康問題を日常的に取り上げやすくなると感じている。

本プログラムに取り組む前後の保健室来室者数を比較したところ、一日あたりの来室者数が、半分以下に減少した。

○ 課題

コミュニケーションスキルアップ教室だけではなく、教科の授業や特別活動など、学校生活のあらゆる場面を通じて、コミュニケーションスキルを意識した指導の場を充実させていくことが課題である。

○ 次年度に向けて

教科指導における言語活動や、学級活動における発表活動を取り入れるなどして、学校生活におけるコミュニケーション活動の機会を増やしていきたい。

そのため教職員のプログラムへの参画意識を高めると共に、校内における組織的な活動を推進できるよう、教職員研修の充実を図り、指導者側の意識を高めていきたいと考えている。